

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年9月9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0891200016		
法人名	有限会社 凜成		
事業所名	グループホーム 花あかりの家	ユニット名	1階
所在地	〒313-0106 茨城県常陸太田市下利員町1262-1		
自己評価作成日	平成26年4月7日	評価結果 市町村受理日	平成26年9月2日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=089120016-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年4月25日	評価確定日	平成26年8月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

山間の静かな環境のなかでゆっくりとまったりと時間が過ぎ、花あかりの家での一日が入居者様との笑い声、笑顔で溢れています。四季折々の景色を見ながら草花に触れる環境が身近にあり、心地よい日の光を浴びることができます。梅の花や桜の花、水仙の花に春を感じ、初夏にはスタッフの家族の協力で野菜畑が出来、野菜の収穫では入居者様やスタッフの笑い声がきこえます。四季を感じることが出来る幸せを入居者様とスタッフで分かち合います。近所の方々との交流もあり、季節の切り花を届けてくれたり、野菜や果物のお裾分けが届いたり花あかりの家が地域に根付いてきていると思います。一番の自慢はスタッフが明るく笑顔で溢れているせいか、施設内も明るい雰囲気を入居者様の明るい声と笑顔が見られることです。今後、家族会の立ち上げに伴いご家族の思いや要望を入居者様の対応の中に反映させていき、居心地の良い「家」にしていきたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は山間に立地しており、自然に恵まれ四季折々の風景を楽しみながら、のどかに暮らせる環境となっている。
近隣の中学校の運動会に招待されて見学に行くほか、事業所主催の納涼祭では近隣住民を招待したり、近所の方から季節の花や野菜のお裾分けがあったりするなど、利用者は地域の人々と交流をしている。
利用者の身体能力が低下して事業所内の家庭菜園での耕作が困難になってしまった現状を見て、管理者の親族が代わりに野菜作りを手伝っており、採れた野菜は食材にして利用者と職員が味わっている。
職員は笑顔で利用者に接するとともに、利用者のレベルに合わせた介護を実践し、利用者が笑顔の絶えない生活が送れるよう支援している。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サービスの資質を高め、それが地域に貢献していくことになるという意味がこめられている。朝礼の際に、「資質の向上に努め地域に貢献します。」という理念を復唱し人材育成のため年間、月間目標を掲げ、スタッフ間の意識の統一を図っています。	「私達は、ご利用者を尊厳、敬愛し、お1人お1人に合った健やかで穏やかな生活を実現するため、寄り添い、努力を惜しまず資質の向上に努め、地域に貢献します」との地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、事務所や各ユニットに掲示している。 職員は毎朝ミーティング時に理念を唱和して共有を図り、実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年の納涼祭は屋外で開催しボランティアの方やスタッフの歌や演奏や踊り、ご家族の方に歌などを披露していただいた。また、地域の運動会やお祭りにも参加している。四季折々の花や野菜を近所の方が届けて下さる事もあり地域に根差しつつあると思います。	利用者は天気の良い日は散歩に出かけ、地域住民と会話を交わすなどしてふれ合っている。 事業所主催の納涼祭では地域にチラシを配布し、多数の地域住民の参加を得られているほか、近所の方の踊りや歌、代表者の知人による三味線演奏などのボランティアの参加があり、利用者が地域住民と交流ができるよう努めている。 近隣にある中学校の運動会に招待されて見学に行くとともに、中学校の授業の一環である職場体験を受け入れている。 近所の方から四季折々の花や大根、トマト、胡瓜、茄子など野菜のお裾分けを頂き、地域住民と日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの資格を活かし地域の人たちに認知症の勉強会をした時は講師として参加したり、 運営推進委員会を通して地域の方やご家族 に入居者の状態を把握してもらい、理解をしていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回行なわれてる運営推進委員会では役員の方家族代表の方に入居者様の状態や状況を報告し要望などを聴き入居者様の事を理解していただき、今後の取り組みについて助言を頂いたり話している。	運営推進会議は、家族等の代表や市職員、民生委員、地域住民などで2ヶ月に1回開催し、会議録を作成している。 会議では行事報告や事業所の状況報告をしたり、委員と活発な意見交換をしたりしている。 「利用者の誕生会には家族等を招待してはどうか」との委員からの意見を受け、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設長は認知症サポーターの資格を活かし地域の人たちに認知症の勉強会を催した時は講師として参加したり、運営推進委員会を通して入居者の現状や状態を報告し、市の関係者に理解をいただいている。(空き状況を担当者に伝えコンタクトをとっています。)	市職員が運営推進会議に毎回出席している。 月1回市担当者が事業所を来訪しており、生活保護受給者の相談や事業所の実情、サービスの取組みなどを積極的に伝えるとともに、情報交換をしている。 施設長が認知症サポーター育成講座の講師を務めている関係もあり、市担当者とは連携が図られている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	1階のホールから玄関近くの出入り口が見えづらいが、施錠せず、いつもオープンにしている。	身体拘束排除に向けたマニュアルを作成するとともに、職員はミーティング時などで話し合い、禁止の対象となる身体拘束の具体的な行為を理解している。 転倒防止のため、2階の階段に柵を設置しているが、家族等に説明して承諾を得ている。 玄関や居室は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	役所からの通達や情報をもとに、毎月行っているミーティングでスタッフに説明や研修を行い、現場で虐待行為を行っていないかの確認を行い話し合うようにしている。また、社内研修に取り入れてさらに防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会はあるものの、それをなかなか現場のスタッフ全員に理解浸透させるのは時間がかかりますが今後も学ぶ機会を設け理解を促したい。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約に関しては社長、施設長の了解のもとに施設長（ケアマネ）が契約や入居に関しての説明を行い、納得されたうえで入所されています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族には出来るだけ面会に来て頂き、顔を見せて話しをして頂くことで入居者様との絆を大事にしている。面会に来られた際には、今現在の状態を報告し本人にとって今より良いサービスを行えるように心掛けている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記している。 利用者の知人や家族等が来訪した際には、意見や要望を出し易いよう声かけをするほか、居室担当職員は家族等に利用者の状況を説明している。 前回の外部評価で「期待したい内容」に掲げられた家族会設立については、管理者は話し合いを設けて家族会設立に向けて調整をしているが、同じく前回掲げられたアンケート調査はまだ実施されず、利用者や家族等の意見や要望を把握するまでには至っていない。	年1回程度請求書送付時などに、無記名のアンケートを返信用封筒と一緒に送付し、家族等の要望を汲みあげることを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日々、職員からの意見や提案などを聞き要望などがあれば、管理者会議で話し合い月1回のミーティングや毎朝の朝礼などで申し送りをして業務に反映している。	管理者は月1回ミーティングを行い、職員から意見や提案を聞くとともに、職員から出た意見等は施設長や管理者2名による管理者会議で検討している。 管理者は職員の勤務の柔軟な変更に対応したり、鍵付のロッカー設置の希望に対して検討するなど、職員から出た意見等を反映できるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフに居室担当の係りを設け支援内容の把握を行い責任感を持って働いてもらっている。また社長（施設長）が毎年各人と面談を行い要望や意見を聞く機会を設けている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入社員の入社時の研修を施設長が行い現場への対応を行っている。また管理者やスタッフが受けてきた研修を、全スタッフに理解してもらうために休憩時間などを使って実務研修をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡協議会やケアマネージャー連絡協議会の催す研修会に参加を呼び掛けたり、参加して勉強会の参考にさせてもらっている。興味のある研修にスタッフ個人が参加する機会も増えている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に代表者（施設長）が家族やご本人と面会をし、担当ケアマネから情報をもって参考にしながら、家族の気持ちや要望、御本人の気持ちや状態を導きだしスタッフに申し送って対応の参考にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	同じく施設長（ケアマネージャー）が家族と連絡・連携を取り合い、本人の今の状況、家族の要望に耳を傾けてスタッフに反映させている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所された入居者様一人一人にあった支援・サービスをケアマネがケアプランに反映しスタッフがそれぞれに基づいて実践するように心掛けしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る限りスタッフが入居者様の生活を支援し、一諸に話しをしたり、食事をしたりしながら寄り添い入居者様の気持ち・思いを受け止め共に生活することでスタッフと入居者様の関係を深めるようにしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来る限りスタッフが入居者様の生活を支援し、一諸に話しをしたり、食事をしたりしながら入居者様の気持ち・思いを受け止め共に生活することでスタッフと入居者様の関係を深めるようにしている。面会時はスタッフが気軽にご家族へ言葉掛けをしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた知人や親戚のかたに再度来所してもらえるようにお話を促している。また病院やお店、地域の催し物などで知り合いの方に遭遇し会話をすることで、再度親交が深められ楽しみとなるよう関わりをもてるようにしている。	利用者の知人や家族等の来訪時には、2階のテーブルやソファが配置されているフロアや居室に案内し、お茶やお菓子などを出してゆっくり話しができるよう支援している。 管理者は正月には利用者が自宅でゆっくりできるよう外泊や外出を家族等にお願いしている。 馴染みの美容師が2ヶ月に1回来訪してもらえるように連絡調整をしたりするとともに、毎月1回マッサージ師が来訪して全員マッサージを受けるなど、人との関係が継続できるよう取り組んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来るだけホールで過ごす時間を長く取れるようにスタッフが関わり、レクリエーションの実施や毎日の日課の歌や口腔体操を必ず実施しながら、入居者同士が関わって楽しめるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後にご家族の要望で時々施設に訪れたり、近所のお年寄りの状態や家庭環境を見て入所に関する相談の電話や訪問を受けたりして、色々な面で関わりができていと思う。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	アセスメントシートを入所前に作成しその方の生活歴や此処までに至った経過や思い等を書き込み全スタッフが把握できるように作成した書類に目を通して貰ってます。また入所後は御本人と話しをしながら関わりを持ち、思いを少しでも汲み取れるよに関わりつづやきコーナーを設け入居者様の思いを共有しています。	職員は利用者と日々の関わりの中でコミュニケーションを図りながら情報を収集し、一人ひとりの暮らしの希望や要望を申し送りノートに記載して全職員で共有している。 各ユニット毎にフロアの壁に「つづやきコーナー」を設置し、職員は利用者の何気ないつづやきをメモにしてコーナーに貼り、全職員で利用者の思いを共有している。 利用者から「ビールが飲みたい」や「出かけたかった」、「美味しいものが食べたい」などのつづやきから、ノンアルコールビールを提供したり、外食や桜見学に出かけたりして利用者の希望や要望に応じている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にアセスメントシートを作成しますがその時入居者の生活歴や思いを書き込みますので、各スタッフが各入居者の生活歴を把握し理解するように心掛けてもらっている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	今その人（入居者様）のまだ出来る可能性のある残存能力を生かす為に、その人（入居者様）の持っている（残っている）能力・特性などをスタッフ全員が把握するように申し送りを徹底し理解に努めています。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャー（施設長）が中心となり、管理者や看護師、御家族や介護スタッフからの意見を取り入れたり御本人の要望があればケアプランに反映させるようにしている。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望を聞き、管理者や計画作成担当者、居室担当職員で話し合っ作成している。 利用者の状態に応じて4ヶ月毎か6ヶ月毎にモニタリングを実施するとともに、4ヶ月から6ヶ月毎に介護計画を見直している。 利用者の状態に変化が生じた場合は、現状に即した介護計画に見直している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践、結果は毎日のケース記録にその時対応したスタッフが随時書き込むようにしている。その情報は職員全員で共有しあい、1日の申し送りとして伝えるようにしている。支援記録は各居室担当のスタッフが書きこむようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ケアマネージャーと家族との間で、現在の御本人の状態、今後どうしていきたいかなど綿密に話し合い入居者様が安心して過ごすことができるよう、スタッフの理解を得ながら新たなサービスにも取り組んでいる。またサービス担当者会議を催しスタッフの意見・家族の要望を反映させている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	時々ボランティアの方には季節の行事の際にレクリエーションを実施していただいている。病院受診は太田市内の病院をかかりつけにして対応し、近所に余りお店が無く買い物に出る機会も少ないので機会があれば車に乗車してもらい出掛ける機会を設けるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所される際には、本人や家族からの要望などを聞いている。特に希望がない場合は近くの病院を勧め、その病院との連携を図っている。	管理者は契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医を確認し、かかりつけ医への受診は基本的に家族等が対応をしているが、都合が付かない場合は職員が通院介助をしている。協力医療機関の受診も職員が通院を支援している。 受診結果は面会時や電話で家族等に報告をするとともに、受診記録簿を作成して全職員で共有している。 常勤看護職員2人が利用者の健康チェックをしており、24時間電話で連絡が取れる体制が整っているため、利用者や家族等の安心につながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日の申し送りで各入居者様の状態を把握していますが、夜勤者や日勤者が気づいた時点ですぐに見て貰えるように報告、相談をして様子を見ています。また継続的な処置も看護師中心で対応していますが、スタッフも処置が出来るようにしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際はサマリーを作成し病院に届け看護師やケアマネジャーが随時、病院に様子を伺い病院関係者や家族と連絡を密にし、情報を交換したり相談しながら現状を把握しています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所後の身体の状態を御家族に報告し把握して貰いながら、病院受診が多くなってきた時に御家族や病院の先生と話し合いを行いながら、その後の支援に取り組んでいる。（できるだけ御本人の訴えにも耳を傾け、家族の意向を尊重するようにしています。）状況を把握し家族の思いを確認しながら慎重に対応していく。	「重度化した場合における対応に係る指針」を作成し、利用者や家族等に同意を得ているが、重度化した場合や終末期のあり方について事業所として体制を整えたり、職員研修やマニュアルを整備したりするまでには至っていない。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を代表者や職員で話し合い、事業所でできることとできないことを明確にし、新たな「重度化や終末期に向けた対応指針」を作成して利用者や家族等に説明し、同意を得ることを提案する。 重度化や終末期の対応マニュアルを作成するとともに、職員研修を実施することを提案する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は定期的を実施しないとスタッフに浸透（理解）しないので、年間の訓練を増やし対応します。定期的なAEDの実施訓練はできていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	まだ不十分なので今後も話し合いを続けスタッフ全員がわかるようなマニュアルを作成したい。昼間想定避難訓練を実施し地域の消防団の協力をえて、毛布などを使用し誘導や放水等を行って頂いた。近隣への呼びかけを準備しているが、まだ実施できていない。	年2回の自衛消防訓練を地元消防団の参加を得て実施しているが、夜間想定訓練や地域住民の参加を得るまでには至っていない。 避難訓練後に反省点や課題などを話し合い、記録に残すまでには至っていない。 災害に備えて飲料水や米、缶詰、麺類、おむつ用品などを用意しているが、備蓄品リストを作成して品目や数量、賞味期限を管理するまでには至っていない。	運営推進会議で消防訓練について話し合い、夜間想定訓練を含めて地域住民の参加を働きかけることを提案する。 消防訓練後は全職員で検討会を開催し、反省点や課題などを話し合い、次回の訓練に活かすことを提案する。 賞味期限を記入して備蓄品一覧表を作成し、適切に管理することを提案する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いには十分に気をつけて言葉掛けしている。名前を呼ぶさいにも場所をわきまえて対応したい。入浴時のスライド使用やトイレでの排泄時はアコーディオンカーテンで仕切ってプライバシーを尊重している。	職員は利用者の尊厳やプライバシーを大切にし、常に職員で話し合い、利用者の羞恥心や自尊心に配慮したケアに取り組んでいる。 入浴介助は利用者の状況に応じて対応し、基本的には一人ずつ入浴支援をしている。 お風呂と洗面所の上にロールカーテンを設置してプライバシーを損ねないように対応している。 個人情報に関する書類は、事務所の書棚にカーテンで目隠しをして保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日言葉掛けを密にし、出来るだけ御本人の気持ちや訴えを聞くようにしてそれをスタッフが共有することで日常のケアに繋げている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的にはこちらの1日の流れにそって行動していただいているが、御本人の要望や希望を聞きながら言葉を掛けたり、その時の状況を察知しながら其の状況にあわせてベストな対応を心掛けている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の時など身支度を整えてその時期に合った洋服を着てもらおうように心掛け スカーフや帽子などその人らしいおしゃれができ生き生きとその時間を過ごせるよう支援している。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフが入居者様と楽しみながら食事をいただいている。バイキング形式での食事や、お楽しみメニューも取り入れている。また、野菜の皮ムキや食事後の食器拭きを手伝っていただくこともある。	職員は利用者と一緒に食卓を囲んで同じ食事を摂り、同時に利用者の食事介助をしながら見守りや声かけをしている。 利用者は職員と一緒に下善やテーブル拭き、食材の下ごしらえ、食器拭きなど、利用者の能力に応じた役割を担っている。 夏はお楽しみメニューの「流しソーメン」やクリスマス会ではバイキング形式での食事を提供しているほか、利用者の希望を聞いてお寿司や鰻、刺身などを提供し、利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お年寄りに水分補給は重要と言う観点からケース記録に水分量をチェックしているので、それを見ながら日々調節している。（食事量も毎食ごとに記入しどの位食べたかを把握するようにしている。）水分量が少ないお年寄りには夜間にも飲んでいただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後各入居者様に言葉掛けをし洗面所へ誘導し口腔ケアを行っている。（口腔内の状態に応じ歯ブラシとスポンジを使い分けている。）		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間はオムツ対応の入居者様もいますが、日中はリハビリパンツに替えてトイレに誘導し排泄され状態に合わせての自立支援を心掛けている。	職員は排泄チェック表を活用して利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、夜間はおむつを使用している利用者でも日中はリハビリパンツを使用してもらい、トイレで排泄ができるよう支援している。 夜間は利用者に声かけをしてトイレでの排泄を支援しているほか、居室にポータブルトイレを配置して排泄の自立に向けた支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を見ながら毎日排便の確認を行い便秘気味の入居者様にはマッサージを行ったり、食べ物を工夫したり、また薬を調節しながら便秘にならないように対策をしています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	出来るだけ入りたい希望があるときには入浴出来るように支援に努めている。拒否をされる利用者様には言葉かけの工夫やタイミングをみはからい入浴を楽しめるように心掛けをしている。	入浴は基本的に週3回午前中と午後に行っているが、利用者の希望にそって入浴ができるよう支援に努めている。季節に合わせて柚子湯や菖蒲湯を取り入れて季節を感じながら、ゆったり入浴ができるよう支援している。仲良し2人で入浴がしたいとの利用者の希望にそって職員は入浴支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	御本人にとって一番いい1日のリズムが出来る様スタッフ全員で支援していく。入居者様によって昼寝をしない方もいますのでその時の状態にあわせたケアを判断して行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬を防ぐために服薬させる前に必ず名前を確認すること、また服薬させるスタッフをあらかじめ決めておくように取り組んでいる、が別なスタッフが関わる時は必ず声掛けをするようにしている。また、本人の状態に薬に関することであれば、医療機関に経過報告や情報を公開し相談するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人が好きなお事、趣味についての話しをしながら日々の生活の中に取り込んで生かしている。それによって充実した毎日を送れるよう支援している。(ドライブ好きの入居者様は買い物名目で車の助手席に乗せて外出したり、食べたい物を外食する支援も行っている。)		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設全体で四季を楽しめるように出掛けている。広い庭を利用したの屋外食事会を設け、豚汁、おにぎり等を頂き喜ばれた。一部の利用者は自宅へ外出し食事などを楽しまれる方もいる。	月1回程度の外出支援を計画し、季節のバラや紫陽花、桜、蓮の花の見学や西山荘などに外出支援をしている。 利用者は自宅へ外出して食事を楽しんだり、家族等と一緒に外食へ行くなどで外出を楽しんでいる。 職員は天気の良い日は事業所の庭で食事会を催し、豚汁やおにぎりを食べながら外気浴を楽しみ、気分転換が図れるよう支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現状ではお金に関して特に訴えはなく所持している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	1階の入居者様は面会に来られる家族が多く電話をかけたり手紙を書くことはしてない。面会時ホールや居室で会話を楽しんでいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族・スタッフ・近所の方から頂いた花々や季節に沿った飾りつけをしている。ホールには入居者様が染めた塗り絵を貼るコーナーを設け作品を飾ることに喜びを見出している。また季節ごとに雛だんやこいのぼりを飾ったりクリスマスツリーを飾りつけて四季を楽しんでいる。	居間兼食堂は広く明るい空間となっており、居間や廊下には利用者のぬり絵の作品が壁に飾られていたり、季節の花が飾られていたりして、温もりが感じられる空間となっている。 2階の広めに設計されたおどり場には造花や籐椅子、テーブルが配置されており、利用者同士で会話を楽しんだりしているほか、居間兼食堂にはソファが配置されており、居心地よく過ごせる場所となっている。 居間やトイレ、浴室などはいずれも清潔に保たれ、利用者が気持ちよく過ごせるよう配慮している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを置いたり写真を飾っている。また、気の合う利用者同士、居室内で楽しくお話したり、一緒に寝たり思い思いに過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族にお願いして使い慣れた衣装ケース・タンス・カセットテープ・お人形などを持ってきて頂いて居心地の良い部屋を心掛けている。	管理者は契約時に馴染みの物品を持参してもらえるよう説明している。 居室はカーテンや整理箆筒、ベット、布団、エアコン、時計が備え付けられている。 利用者は家族等と相談してテレビやぬいぐるみ、家族の写真、ソファ、椅子などを持ち込み、利用者好みの居室で居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物が広々とした設計になっているので、長い廊下を生かして歩行訓練を行ったり、ベットや椅子等はその入居者に合った安全でかつ自立できるようなものを随時選んで様子を見ています。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="checkbox"/> 1, ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> 2, 数日に1回程度ある <input checked="" type="checkbox"/> 3, たまに <input type="checkbox"/> 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, 大いに増えている <input type="checkbox"/> 2, 少しずつ増えている <input type="checkbox"/> 3, あまり増えていない <input type="checkbox"/> 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 2, 職員の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 職員の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 2, 利用者の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 利用者の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> 1, ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 2, 家族等の2/3くらいが <input type="checkbox"/> 3, 家族等の1/3くらいが <input type="checkbox"/> 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム 花あかりの家

作成日 平成26年9月2日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	10	利用者や家族等の意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表わし反映させる機会が見られていない。	1年に1回程度請求書送付時などに無記名のアンケートを返信用封筒と一緒に送付し家族等の要望を汲み上げる。	今年度中に家族会を立ち上げるので発足時にその旨の話をして家族に了解して頂き意見、要望が運営に少しでも反映できるようにしていく。	6か月
2	33	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合い、事業所で出来る事をまだ十分に説明して取り組むことが出来ていない。	重度化や終末期に向けた事業所の対応方針を代表者や職員で話し合う。又主治医の先生との連携を計る為に話す機会を設けていく。マニュアル作成や職員研修も行う。	各入居者様の状態を把握しつつ、家族の意向を確認しながら代表者とスタッフ(管理者や看護師)の話し合いを開催したり、主治医の先生に施設の意向を伝えながら関わりの話し合いを持ち今後の対応に繋げていく。施設で話し合った内容をマニュアル化したり、終末期に向けた研修も行っていきたい。	6か月～1年
3	35	年2回の避難訓練を実施するも地域住民の参加に至らない事が多く、訓練後の反省点や課題を話し合う機会を設けられていない。備蓄品があるも賞味期限やリスト作成が出来ていない。	次回の避難訓練には消防署や地元消防団、近所の方々の参加を要請(お願い)し、訓練後は検討会を開き参加スタッフで反省点や改善点の話し合いを行う。災害に備えた飲料水や備蓄品のリストを作成する。	今季(秋)に実施の避難訓練は消防署立ち合いで、出来れば地元の消防団や近所の方々に参加して貰い消火方法や避難の仕方を実施し、訓練後の検討会(反省点・改善点等)で話し合う。飲料水や災害用の菓子(備蓄品)のリスト作りや賞味期限が分かるように一覧表にまとめる。	3か月
4					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。